コメニウス セレクション

覚醒から光へ

学問、宗教、政治の改善



34 PRAEFATIO

proponimus. Utrum affequamur etiam, Vos judicate, & ut affequi tandom, tandem, tandem, afiquomodo queamus, juvate!

Synopsis Operis Consultatorii.

Introdum: in quo, Qvid proponamus exponitur: Dicitar PANEGERSIA, h.e. Excuratorium. Lib.J. Fundamentum, Lucean Univerlatem: PANAUGIA, Let. \mathbf{H}_{i} RESomnes, eatenus confutifilms: PAN-SOPEIA. Ш Confol-Corpus ip/aim: Tentamina tatioCa-MENTES ownes, capareicularia: proponens tholica tenus implicatiffi-Emendatioredigendi haber mas: PAMPÆ nis Univerfeil. in or-DIA, Lib. 1V. falis dinem. LINGVAS omnes. eatenus intricatiffimas: PANGLOT-Lib. V. TIA, nchem completium, PANORTHOSIA. Lab. VI. Claufulan, continentem adrestàm defideratas, & quarum tâm claré derectas videraus vias, variè iteratos filmulos. Dicetur PANNUTHESIA, Exhort at orium som ver fale, Lib, VIL

DE

訳者はしがき

manarum Emendatione Consultatio Catholica』(以下『人間についての熟議』または 本書は、 コメニウス (1592-1670) の遺稿である『人間に関わる事柄の改善についての総合的熟議 『熟議』と省略)全七部作の序文と第一部 De Rerum Hu-

第二部の翻訳である。 七部の構成は以下の通り。(〔 〕は訳者が補ったもの

第一部 パンエゲルシア
普遍的覚醒
「堕落している現状の批判」

〔序文〕 ヨーロッパの光である人々へのあいさつ〔既刊〕

第二部 パンアウギア
普遍的光〔改革の可能性を示す〕

「学問・知識の体系化

普遍的知恵

第三部

パンソフィア

第四部 第五部 パングロッティア パンパイデイア 普遍的教育〔生涯にわたる教育の改善〕 普遍的言語〔新しい言語の創造〕

第六部 パンオルトシア 普遍的改革 〔世界会議の提案〕

第七部 パンヌテシア 普遍的勧奨 [事業への励まし]

用語辞典

たって序文をあえて再掲したことをお断りしておく。 訳者は第四部のパンパイデイアを先に東信堂から翻訳・出版し、 その際序文も合わせて掲載した。 今回の翻訳にあ

されたのは一九六六年のことであった。それ以降コメニウスはより広い分野の社会改革を目ざした学者として注目さ 者としての側面は、 れて回覧されただけで、それもやがて忘れられてしまったのである。 者として教育学の歴史上よく知られた人物である。 メニウスは、 教育の理念・教授方法・学校論を論じた『大教授学』や子ども用の絵入り学習本 長らく無視されてきたといってよい。 しかし『熟議』に見られるような広範な分野の改革を目指 コメニウスの生前に『熟議』はごく一部分が若干部印刷さ 草稿の全体が発見されたのは一九三五年、 『世界図絵』 公刊

日本でのコメニウス像はまだ古いままにとどまっているといわざるをえない。

て、各地に亡命している仲間を救援し、祖国復帰のために尽力した生涯だったのである。 ら多くを学び、またデカルトとも懇談するなど、両人と同じ十七世紀を生きた人であったが、 代哲学の父と称されるフランスのルネ・デカルト(15%-1650)といってよいだろう。コメニウスはベーコンの著作か ンエゲルシアの第五章でこう断言する、 めて平和になり、すべての人が賢くなるという願望は、 いた。三十年戦争によって祖国チェコを追われ、自らが属していた小さなプロテスタント教団のリーダーの一人とし 十七世紀のヨーロッパの大学者といえばイギリスの大法官にして哲学者のフランシス・ベーコン(1561-1626)と近 「哲学、 政治、 宗教の目的は、 教育を普及させるという希望は、 平和である」と。 誰よりも強かった。 そのため、 境遇はまったく違って 世界が戦争をや

意を固めているところである。 ルシアと第二部のパンアウギアを世に問うことにする。 ルの大きさには驚いた。 今回東信堂が出版を引き受けてくれたことにより、改めてコメニウスの著作を本気で読み直そうという決 しかし原文がラテン語ということもあり、研究として他人にお見せするような自信はとても まず第四部の 『パンパイデイア』を翻訳・公刊できたので、 残りは条件が許せば公刊したいと念願している。 今回は第一 ンエゲ

訳者は大学院時代にベーコンの学問論を学び、その後コメニウスの著作に親しんだ。とりわけこの『熟議』

1. 底本

底本としたのは、プラハのチェコスロバキア科学アカデミー (当時) から1966年に出版された De rerum humanarum emendatione consultatio catholica 二巻本である。該当箇所は第一巻の1ページから245ページまでである。

2. 参照した版

プラハで企画されているコメニウス全集 Opera Omnia Jan Amos Komensý 第19巻の I (Praha、2014)を必要に応じて参照した。この本には『熟議』の総序文と第一部と第二部が収録されており、コメニウスが友人に送った草稿や異版本などを参照した校訂版である。

3. 現代語訳

訳出にあたっては以下の現代語訳を参照した。

- (1) COMENIUS' S PANEGERSIA or UNIVERSAL AWAKENING, Translated by A. M. O. Dobbie (Warwickshire, 1990).
- (2) JOHN AMOS COMENIUS PANAUGIA or UNIVERSAL LIGHT, Translated by A. M. O. Dobbie (Warwickshire、1987).(1)と(2)はドビーによる英訳であるが、原文にある小見出しがすべて省略されている。またかなり意訳されている。
- (3) Jan Amos Komenský, Obecná porady o nápravě věcí lidských (Praha、1992). これはコメニウス生誕 400 年を記念して出版された『熟議』全体のチェコ語訳である。
- (4) Johann Amos Comenius Ausgewählte Schriften zur Reform in Wissenschaft, Religion und Politik, Übersetzt und bearbeitet von Herbert Schönebaum (Leipzig、1924). この本には、『ナタンのダビデとの秘密の会話』と『民族の幸福』と共に、『熟議』の序文と第一部のドイツ語訳が収録されている。

4. 本文の節と見出しの表記

- (1) 原文に掲げられている目次は、内容を説明するように詳しく図示されている。この翻訳の vi-viii 頁に示した目次は、訳者が簡略化したものである。また、各章ごとのタイトルも、訳者が多少修正したことをお断りしておく。
- (2) 原文には欄外に詳細な小見出しが付いている。それらはゴチック体で示した。
- (3) 小見出しに番号が付けられている場合があり、それらは時に洋数字だったりカッコ付きの洋数字だったり、ローマ数字だったりする。この訳ではできるだけカッコ付きの洋数字に統一した。
- (4) 節ごとに付けられた番号は原文の通りである。ただし、第一節には番号が付いていないので補った。
- (5) 原文には大文字による強調やイタリックの表記がたくさん使われている。しかしそれらはこの翻訳では再現することができなかった。なお、定本とした版の大文字の部分が校訂版では小文字に修正されている箇

所が少なくない。

(6) ()は原文にあるもの、[]は訳者が補ったものである。

5. 人名・地名の表記

人名や地名をカタカナでどう表記するかは常に悩ましい問題である。 アレクサンドロスとするかアレキサンダーとするか、ウェルギリウス かヴェルギリウスか、キケロかキケローかなど微妙な問題があるが、慣 例に従った。

6. 聖書からの引用

- (1) コメニウスは聖書から頻繁に引用しており、多くの場合引用箇所を本文中に示しているので、この翻訳でもそれにならい本文中に()で示した。コメニウスが引用箇所を明示していない場合でも訳者が分かる範囲で明示し、その場合は本文中に[]で示した。聖書の省略書名のあとに章番号と節番号をハイフンでつないで示した。聖書の省略書名は別表の通りである。
- (2) コメニウスが使用していると思われる聖書はいわゆる「ウルガタ vulgata」聖書と呼ばれているラテン語の聖書と、当時チェコで使われていた「クラリッツェ zdroju kralicke」 聖書だと思われる。訳者はウルガタ聖書に Weber-Gryson, Biblia Sacra Vulgata, Stuttgart, 2007を参照したが、クラリッツェ聖書は参照できなかった。また日本語訳聖書として日本聖書協会出版の「新共同訳」(1987、1997)を参照した。「新共同訳」はヘブライ語、ギリシャ語原典からの翻訳なので、コメニウスが使用したと思われるウルガタ聖書、クラリッツ聖書とは当然ながら微妙な違いが見られる。その場合はコメニウスが述べている通りに訳すようにした。ただし、書名や章節の番号などは「新共同訳」に従った。たとえば、コメニウスが頻繁に引用している Ecclesiastes を「伝道の書」と直訳せず「新共同訳」に倣って「コヘレトの言葉」と訳した。その方が日本の読者が参昭する場合に便利だと判断したからである。

7. 聖書省略語()内は省略語。なお、コメニウスが引用しているものに限った。

創世記(創世記)

出エジプト記(出エジプト)

レビ記(レビ)

民数記(民数記)

申命記(申命記)

ヨシュア記(ヨシュア)

士師記(士師記)

ルツ記(ルツ記)

サムエル記上(サムエル1)

サムエル記下(サムエル2)

列王記上(列王記1)

列王記下(列王記2)

歴代誌上(歴代誌1)

歴代誌下(歴代誌2)

ョブ記(ヨブ)

詩篇(詩篇)

箴言(箴言)

コヘレトの言葉(コヘレト)

雅歌(雅歌)

イザヤ書(イザヤ)

エレミヤ書(エレミヤ)

哀歌(哀歌)

エゼキエル書 (エゼキエル)

ダニエル書 (ダニエル)

v

ヨエル書 (ヨエル ヨナ書 (ヨナ) ハバクク書 (ハバクク) ゼカリヤ書 (ゼカリヤ) マラキ書 (マラキ) 知恵の書 (知恵) シラ書 [集会の書] (シラ) マタイによる福音書 (マタイ) マルコによる福音書 (マルコ) ルカによる福音書 (ルカ) ヨハネによる福音書 (ヨハネ)

使徒言行録 (使徒) ヨハネの手紙一 (ヨハネ1) ローマの信徒への手紙 (ローマ) ヨハネの手紙二 (ヨハネ2) コリントの信徒への手紙一 (コリント1) ヨハネの手紙三 (ヨハネ3) コリントの信徒への手紙二 (コリント2) ヨハネの黙示録 (黙示録)

ガラテヤの信徒への手紙(ガラテヤ) エフェソの信徒への手紙(エフェソ) フィリピの信徒への手紙(フィリピ) コロサイの信徒への手紙(コロサイ) テサロニケの信徒への手紙一(テサロニケ1) テサロニケの信徒への手紙二(テサロニケ2) テモテへの手紙一(テモテ1) テモテへの手紙(ヘブライ) ペトロの手紙一(ペトロ1) ペトロの手紙二(ペトロ2) ヨハネの手紙一(ヨハネ1)

56	それらがいかに堕落していることか	第五章
46	人間に関わる事柄とは何か	第四章
40	ここで何が企てられているのか	第三章
	自分自身の覚醒	第二章
	覚醒するとはどういうことか30	第一章
29	パンエゲルシア(普遍的覚醒)	第一部
	総序文の訳注	総序文
1	人間に関わる事柄の改善についての総合的熟議	人間に
	訳者解説	訳者解説
	凡例	凡例…
	訳者はしがき	訳者は
	次	目

		第四章	第三章	第二章	第一章	第二部	パンエゲ	第十二章	第十一章	第十章	第九章	第八章	第七章	第六章
な光の第二の泉である私たちの魂	な光の第一の泉であるこの世界	知的な光を灯すのは可能か	知的な光とはどのようなものか180	光と闇について	光の観察が今企てられるのはなぜか172	パンアウギア(普遍的光)	パンエゲルシアの訳注	神への共同の嘆願	この熟議へのすべての人の招待150	この熟議のための規則11	改善の新たな試み11	改善の努力を止めてはならない99	改善についてのこれまでの熟慮84	堕落の恥辱と損害72

索引	索引を
パンアウギアの訳注	パン
第十六章 明かりの父への嘆願	第十
第十五章 魂の普遍的光は、普遍的な魂を求める	第十
パンソフィア、パンパイデイア、パングロッティア、パンオルトシアの区分について	
第十四章 今も普遍的光を妨げているように見える障害	第十
第十三章 普遍的光を持てなかった原因	第十
第十二章 闇を追い払う光	第十
第十一章 自然界の光の道による説明	第十
- 章 普遍的光の普遍的調和	第十章
7章 三つの目の三つの補助手段である分析、総合、類比	第九章
/章 光を見る三つの目である感覚、理性、信仰	第八章
J章 知的な光の第三の泉である神の言葉	第七章

訳者紹介

太田光一(おおた こういち)

1949 年福島県生まれ。1972 年東京大学教育学部卒。高知大学、福島県立会津短期大学、公立大学法人会津大学勤務を経て、2015年3月定年退職、横浜市在住。『パンパイデイア 生涯にわたる教育の改善』(東信堂、2015年)、科学研究費報告書『コメニウスの総合的研究』(課題番号03301034、平成5年)、同『コメニウスのパンソフィアの総合的研究』(課題番号11610276、平成14年)、その他。

覚醒から光へ:学問、宗教、政治の改善

コメニウスセレクション3

2016年 10月15日 初版 第1刷発行

〔検印省略〕

定価はカバーに表示してあります。

訳者C太田光一/発行者 下田勝司

印刷・製本/中央精版印刷

東京都文京区向丘 1-20-6 郵便振替 00110-6-37828 〒 113-0023 TEL (03) 3818-5521 FAX (03) 3818-5514

発 行 所 類 東 信 学

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO., LTD. 1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023, Japan E-mail: tk203444@fsinet.or.jp http://www.toshindo-pub.com

ISBN978-4-7989-1388-9 C3310 © Ota Koichi